

第3回「エコシティたかつ」推進会議 摘録（案）

日 時：2008年9月30日（火） 15:00～17:30

場 所：高津区役所 第4会議室

出席者：岸委員長／横山滋副委員長／小島委員／田中委員／水谷委員／住田委員／
吉田委員／伊中委員／川辺委員／若杉委員／桑畑委員／鈴木委員／
秋元委員／井澤委員

佐藤／新井正男／星／中村／新井勇／加藤（事務局）／梶谷（コンサルタント）

1. 開会

資料確認を行った。

2. 前回会議の振り返り

摘録（資料1）に沿って、前回会議で検討した内容や意見について振り返った。

3. モデル事業の進捗状況

事務局より、モデル事業として行っている「緑のカーテン」大作戦の進捗状況について報告を行った。

<「緑のカーテン」コンテスト>（参考資料）

コンテストの応募状況は、個人部門40件、団体部門14件の計54件であり、本日の会議後、審査委員会を開催する（審査委員はエコシティたかつ学識委員、公園緑地協会部長、高津区長）。10月18日（土）に行われる「市民活動見本市2008」内の「緑のカーテン報告会」で、表彰式を行う。

4. 推進方針骨子（案）の検討

まず、前回会議及び、学識委員の打ち合わせの議論をもとに作成した骨子（案）（資料3；方針策定にあたって／基本理念／基本目標／基本的な考え方）について、事務局より説明し、岸委員長より基本目標の立て方の順番を一般へのなじみやすさから変更した点、特に高津らしさについてきちんと書かれているか確認して欲しい点について、補足説明を行った（以下、議論要旨）。

<基本理念>

（田中委員）

“自然の賑わい”とはどういうことを意味しているのか？

（岸委員長）

生物多様性条約“Convention on Biological Diversity”では、“biological diversity”は生物の

種の多様性、遺伝の多様性、生態系の多様性と定義されている。この生態系の定義の仕方も、一部の学者の中では、複雑な相互関係で結びついた生物の高次の組織などとして定義しているのだが、それは無理なことであり、伝統的に生態系とは、流域や丘陵など地べたを含むものというほかない。めずらしい生きものだけを守るのではなく、まちにある池や湿地、森などの多様な生態系を守れば同時にたくさんの生きものを守ることができる。そういったことから、実は私が、生きものに注目する時は“生きものの賑わい”、両方総合的に言う時には“自然の賑わい”という言葉を使う方式を工夫し、諸方面でそこそこに利用されている。

(小島委員)

方針にその意味について書いた方が良いと思う。

<基本的な考え方>

(伊中委員)

②の健全な水循環システムとはどういうイメージか？

(岸委員長)

降った雨が地中にしみこみ、それが地下水となって…という水の循環があるが、その水循環のあり方が人々の暮らしを脅かさず、健全で豊かな産業や自然を支え、またそれぞれにバランス良く、良い効果を与えることを水循環の健全化を図るといふ。治水も含み、ハード、ソフト、両方のシステムを表す。

(水谷委員)

④について、推進できたら素晴らしいと思う。背景に考えられている具体的なことがあれば教えてほしい。

(中村課長)

今年度より、区の自主事業である協働推進事業の予算要求資料に、環境配慮の項目を加えた。環境とは直接的に関係しない、健康福祉関連の事業なども環境的視点から見直しできればと思っている。現在、区の外部評価事業の見直しを行っており、環境の視点から、あらゆる事務事業を評価する仕組みが必要であり、上手くつなげていけば良いと思っている。

(岸委員長)

五全総（21世紀の国土のグランドデザイン）では、地域的諸施策や資源管理の統合の場としての流域の重要性が挙げられている。全事業をエコロジカルな視点で見直し、統合的に評価しなおすことが重要であると同時に、それを行政区の枠組みを意識してやるのか、ランドスケープの枠組みを意識してやるのかも重要だ。どちらを採用するかでまったく違う話の展開になっていく。文言として、“「エコシティたかつ」推進方針を分野別～”ではなく、“「エコシティたかつ」推進を分野別～”にしてはどうか。

(小島委員)

多治見市（予算編成の段階で環境の視点を入れている）のように先進的に行っている自治体もある。よく見直してみると改善できるものもあるだろう。他の区や全市的な取り組みへの波及効果も期待したい。

（水谷委員）

事業を環境的な視点で見直すことは是非やるべきで、それがちゃんとサイクルになっていく仕組みづくりまで考えていくことが重要だと思う。

（岸委員長）

縦割りで予算取りを行っている上位行政では無理なので、総合調整を行うことができる区レベルで進めていくことが求められる。

（小島委員）

⑤のアクションプランとリーディングプランはどのように使い分けているのか。通常、アクションプランの中に組み込む場合は、リーディングプロジェクトと言ったり、プロジェクトの束で連動したような複数のプロジェクトであれば、プランとプロジェクトの間の段階にあるプログラムと言ったりする。今後の作り方によって決めたら良いだろう。

（田中委員）

リーディングという考え方は、確実に成功することを前提に置いていると思う。失敗した結果より得た有効な知見を次に活かす、という意味でパイロットプログラムとしても良いだろう。

（岸委員長）

今後、内容をつめ、どのような位置づけにするか最終的に調整したい。

（田中委員）

社会的意義が前面に出ているので、区（市民）のレベルに立ち、効果や価値の受領のされ方についても書いた方が良いと思う。高津区においては都市のアメニティ機能（住環境）の向上や、生活の質を高めるなどの福祉的効果があげられると思うが、そういった視点に立って書き方を工夫してはどうか。

（岸委員長）

入れる方向で進めたい。

<全体>

（小島委員）

高津区は人口 20 万人の高度に都市化している地域であり、20 世紀型の都市づくりから 21 世紀型の都市づくりへどう変えていくかが重要である。自然特性については書かれているが、社会経済特性については書いていくのか。

（岸委員長）

高津区の歴史をどこかで書いたら良いのでは。

岸委員長より、位置づけ、基本理念、基本目標、基本的な考え方の主旨、及び高津らしさについて、おおむね了解ということで良いか確認がとられ、合意した。

続いて、委員の皆さんより、意見シート（資料2；前回会議後にアクションプラン等について意見を書いてもらったもの）の発表を行った（以下、意見要旨）。

（吉田委員）

二ヶ領用水の再生など、水を活用した取り組みを行いたい。高津らしさについては、理念に取り込まれており良いと思う。

（川辺委員）

路地尊を個人だけではなく、近所や町会の人と共同して行いたい。エコをやることでコミュニティの交流につながり相乗効果だと思う。

（住田委員）

区役所の食堂から出た生ごみを循環させる仕組みを作り、その事例を発信するなどして、区民に生ごみ自体に意識を持ってもらい、生ごみリサイクルを広められれば良いと思う。

（横山滋委員）

資源の再利用はコミュニティをつくることにつながる。雨水利用はまずは関心のある地域にターゲットをしばって広めていった方が良い。

（横山登委員）※吉田委員代理

健康の森の活動を土台に、出来る限り自然のままの公園を子どもたちに残したい。

（若杉委員）

丘陵地、平坦地、身近な緑等の緑の保全が重要である。市民の視点として、高津の水と緑・プロジェクトを進めたい。

（伊中委員）

水と緑の分野の市民活動のネットワーク化（情報の共有化）や菜の花里親プロジェクトを進めたい。次に何を進めたら良いか、分かりやすい体験イベントも必要だと思う。

（秋元委員）

自然エネルギーの活用や生活環境の保全、共有化など、子どもをはじめ多くの区民が参加でき、また利便性を併せた施策を展開したら良いと思う。

続いて、アクションプラン（資料3；アクションプラン）（資料4）について、資料説明を事務局より行った。まず、アクションプランの推進について、エンジンは行政が担うが、行政計画に納めず、各主体が協働して進めていくことについて確認がとられた。また、アクションプランについて、他にあげた方が良いものや入れなく良いものなど検討した（以下、意見要旨）。

<アクションプラン>

（桑畑委員）

学校流域プロジェクトは良いと思うが、緑のカーテンのように気軽に取り組めるものと

は違い、設備投資や管理など予算が必要となる。教育委員会では難しいと思うので、エコシティたかつとして資源を入れることが出来れば良いと思う。

(岸委員長)

国は学校をないがしろにしていると思う。地域で企業と連携するなど、総合的に考えることが必要である。

(鈴木委員)

再生可能エネルギーの利用促進に期待したい。自分の会社では、エコアクション (CO₂ 2%削減) に取り組んでおり、ISO より簡単に取り組めるので、区民も取り組んだら良いと思う。

(小島委員)

アクションプランは計画に関するものは多くあるが、実際のアクションにつながるものが少ないので、もっと検討・整理する必要がある。特に、交通に関すること、生活の質に係る福祉に関することが抜けている。SEA については、議論が必要。また今後新しい取り組みがはじまった時にそれを取り込めるような余地も作っておくことも必要では。

(横山滋副委員長)

「学校流域プロジェクト」では、私立の学校も含めて進めて欲しい。また学校というのは、文化的資源であり、人もいて、土地もある。地域の財産として活かしていくという観点が必要だと思う。

(田中委員)

○の推進体制の図は、それぞれに入れるのか。また、実際に事業を行っているそれぞれの現場があり、間をとりまとめて動くことがなかなか出来ない。推進体制の陣容を形成するためのプログラムや連携推進プログラム、政策融合推進プログラムのようなプログラムに一割程度投入することで、潤滑油となって全体を推進する上で役に立つこともあると思う。

(岸委員長)

○の推進体制の図については、すでに事務局に指摘しているが、誰が主体にやっていくのか、担い手を明記したマトリックスにしてはどうかと考えている (図はリーディングプランのみに使うなど、内容と併せて検討する必要がある)。

(住田委員)

関連意見欄に名前があがっているが、その事業だけへの意見ではないので、区切りを強調しないで欲しい。学校流域プロジェクトで落葉拾いなども出来ると思う。また、緑の管理はとても難しく、個人レベルで色々な考え方があがる。肥料や知識など管理についても考えた方が良いと思う。

(川辺委員)

「区役所の緑化等、エコシティホール化の推進」が短期となっているが、区役所として打って出るのであれば、それなりの覚悟を持ってきちんとした形でやらなければ、やった

意味がないと思う。見本園として、どれくらい対応できるのか。屋上緑化も現在、見るに耐えない状況になっており、メンテナンスがきちんと出来ていないことは問題ではないか。

(中村課長)

屋上緑化については、緑のカーテンの肥料が流れおち、肥料焼けしていることが分かり、対処を考えている。費用対効果で言うと、地域のマンション組合や行政など色々なところからの見学を受け入れており、エコシティホール（環境見本展示場）としての効果は上がっていると思う。

5. 会議のまとめ

岸委員長より、以下まとめを行った。

- ・ 基本理念、基本目標、基本的な考え方について合意し、おおむね高津らしくなったということ、またアクションプランの推進については社会計画としての性格を持ち協働で進めることについて確認した。
- ・ アクションプランについては、事務局で整理し、第4回に検討する。
- ・ 第4回の会議では、推進体制が重要テーマとなるだろうが、たくさんあるアクションプランを切り捨てるのではなく、熟度をあげていくこと、そのような機能を持ったメカニズムにすることが、「エコシティたかつ」が画期的なシステムにする重要なポイントだと思う。

6. 事務連絡／次回の会議日程

事務局より、以下、事務連絡を行った（参考資料）。

- ・ 電機自動車（EV）の利用実証試験について
- ・ NPO 川崎市民石けんプラント見学バスツアーについて

また、次回の会議については、12月2日（火）15:00～、大山街道ふるさと館にて開催予定とする。

以上